日本医科大学 リハビリテーション部門

NIPPON MEDICAL SCHOOL REHABILITAION COMPLEX

Nippon Medical School

部門紹介

- 日本医科大学付属病院（東京都文京区）
- 日本医科大学北総病院（千葉県印西市）
- 日本医科大学武蔵小杉病院（神奈川県川崎市）
- 日本医科大学多摩永山病院（東京都多摩市）
- 日本医科大学大学院医学研究科リハビリテーション学分野

東京・神奈川・千葉県を中心に構成

日本医科大学千葉北総病院

日本医科大学付属病院

日本医科大学武蔵小杉病院

日本医科大学多摩永山病院

日本医科大学付属病院

- 診療科：42科
- 病床数：877床（一般850床･精神２７床）

主な施設：

高度救命救急センター(CCM部門･CCU部門) 60床
外科系集中治療室 S-ICU 20床 HCU/SU 16床
新生児集中治療室（NICU）･新生児回復室（GCU）
血液浄化療法センター 15床
化学療法室 35床
手術室 23室(ハイブリッド手術室1室)
リハビリテーションセンター

部門理念

1．患者様中心の医療
2．最良のリハビリテーション評価、治療の普及
3．明日の臨床を支える研究活動
4．優れたリハビリテーション研究家の育成

「つくすこころ」で、良質な医療を提供します。
また、教育の場として、優れた医療人の育成に努めます。

部門の特徴

キャリアアップデザイン

日本医科大学４病院内で、
各病院特性の経験やスキルアップを
目標に希望を考慮した異動や
将来像に合わせ成長できる
jobローテーションシステム

スタッフ構成

スタッフ構成

	付属病院	千葉北総病院	武蔵小杉病院	多摩永山病院	合計
理学療法士	29	22	13	11	75
作業療法士	12	9	4	4	29
言語聴覚士	6	5	3	4	18
臨床心理士	0	3	0	0	3
合計	47	36	20	19	122

4病院　122名　の療法士が在籍！

認定資格

専門理学療法士（生活環境支援）	1 名
認定理学療法士	12 名
認定作業療法士	1 名
認定言語聴覚士	1 名
集中理学療法士	2 名
呼吸療法認定士	28 名
心臓リハビリテーション指導士	13 名
腎臓リハビリテーション指導士	1 名
糖尿病療養指導士	4 名
急性期ケア専門士	3 名
パーキンソン病療養指導士	1 名
介護支援専門員	4 名
日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士	2 名
脳卒療養指導士	2 名
医療安全推進者	2 名
臨床実習指導者	36 名
地域包括ケア推進リーダー	2 名
介護予防推進リーダー	1 名

その他

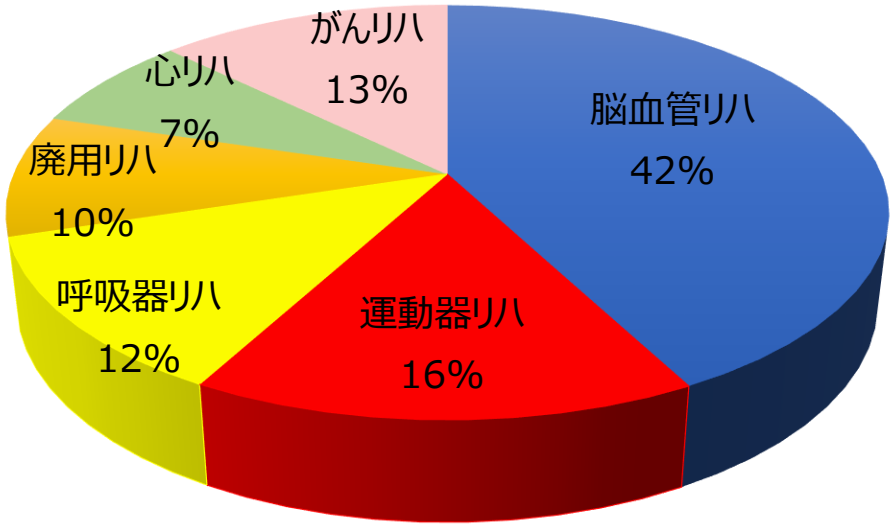
・がんのリハビリテーション研修

・DMATやJRAT等、災害派遣

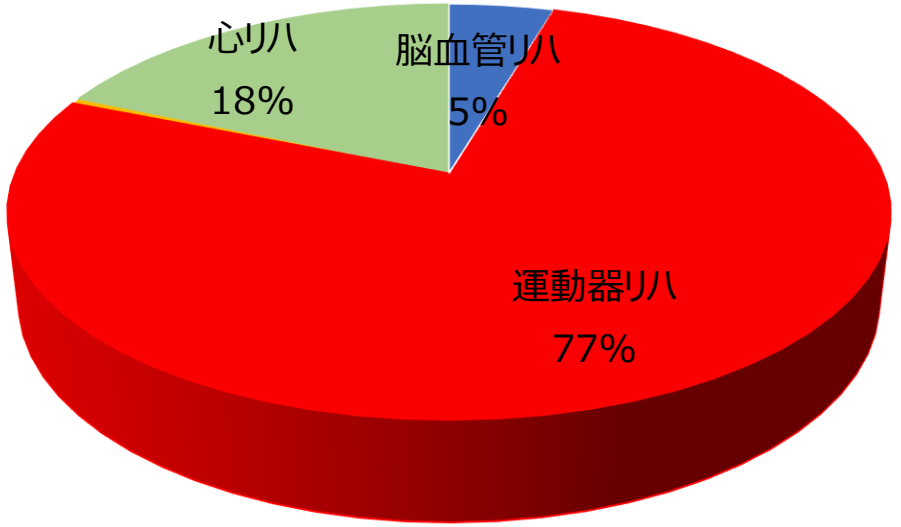
・大学院への進学実績あり。
自己研鑽に励んでいます！

対象疾患割合（4病院）

入院



外来



2024年度実績

新人教育

CCSによる卒後５年教育

「新人教育プログラム」

4月
- 試用期間（4～6月）
- 臨床研修（講義・実技）
- 既卒者　6月～取得単位目標　18単位

7月
- ベッドサイドリハ自立
- 担当人数6～10人（段階的に）
- 新卒者　9月～取得単位目標　18単位

10月
- 担当人数10人～
- 症例検討会①/中間評価

3月
- 症例検討会②/最終評価

- キャリアパスは、1年目、2～5年目、6年目以降の3段階にて構成
- 1年目は基礎的臨床スキルの向上を目指し、2名の先輩スタッフを中心に プリセプター制度を活用した教育を展開
- 最低限のリスク管理・介助技術などは 最初の2ヶ月間で集中的に指導を受け、その後、さまざまな疾患・障害像に触れながら、1年間で独立を目指します。

「キャリアパスを考慮した3段階の教育システム」

ロードマップ	2年目	3～4年目	5年目
目標	臨床スキルの定着 基礎知識/技術、接遇/倫理	教育/研究活動	ジェネラリストの確立
臨床	講義、手術・処置見学、カンファレンス参加、症例ディスカッション等 PT/OT/ST協会主催研修会参加	他学会参加 各種認定資格取得	
教育/管理	学生・スタッフ教育		臨床実習指導者講習会受講
研究	研究チーム参加	研究チーム所属 学会参加/症例報告	（研究発表）

- 2～5年目は専門チームに所属しながら、高度な医療を展開できる人材を育成します。
  なお、既卒者も同様の教育を受けることができ、経験・希望に応じたキャリア形成を支援します。
- 6年目以降は、各個人の成長プラン、キャリア形成にあわせて、管理運営業務、 臨床研究などを支援

「症例発表、リハビリテーションカンファレンス」

●各病院、1年次に年間1回以上の症例発表会を実施。先輩指導の下作成し、対外的な場での発表も検討していきます。

●2年次には、リハビリテーション科医師参加のもとカンファレンスでの事例検討実施。

理学療法

「未来を拓く理学療法士の育成」

「理学療法部門の特徴」

●4 つの専門チーム（脳卒中班、整形班、心臓班、集中治療班、（腫瘍班））を有する。

●患者様がほぼすべての診療科・部門から紹介。

●高い専門性だけでなく、すべての患者様を多方面から診ることのできる人材の育成を目指しています。患者さま一人ひとりに最適な医療を提供し、チーム医療への貢献や院内外において先導的な役割を果たすことのできる理学療法士を育成します。

作業療法

「その人らしさを大切にする作業療法」

「作業療法部門の特徴」

●CCM・CCU、SU等、超急性期から生活行為に着目し、ナラティブを大切に個々人に合わせた「その人らしい」作業療法を実施。

●多くの診療科・部門からリハビリ依頼があり、特に脳卒中領域の患者様へは早期から機能訓練と共に日常生活動作自立へ向け、自助具導入や片手動作練習等を実施しています。

●地域連携

自動車運転再開に向け、近隣自動車教習所と連携し、ドライブシュミレーターや実車運転等の評価を通じ、安全な自動車運転再開へ向けた取り組みを実施。

言語聴覚療法

「超急性期から良質な言語聴覚療法を提供」

「言語聴覚部門の特徴」

- 最先端かつ細やかな摂食嚥下リハビリテーション

  最新の評価機器（高解像度マノメトリーなど）、治療機器（反復末梢磁気刺激、干渉波電気刺激など）の使用

  系統的な嚥下評価プロトコール（脳卒中超急性期など）の整備

- 専門的な言語・高次脳機能評価

  超急性期のスクリーニングから、状態安定後の精査まで患者に応じた評価を実施

嚥下検査

- 嚥下スクリーニングを行い、嚥下障害があると判断した患者には、VE・VF（ 5～7件/週）を積極的に実施
- 必要に応じてマノメトリー、筋電図等の検査を追加し、嚥下障害の病態をさらに精査
- 嚥下カンファレンス（1回/週）で検査結果を共有し、患者にとっての最良のゴールを設定

嚥下内視鏡検査

嚥下マノメトリー

研究内容紹介

フレイル・サルコペニアに着目した脳卒中患者に対する前方視的研究

当部門では、脳卒中集中治療科と共同した大規模データベースにより、
脳卒中患者における予後調査をフレイル・サルコペニアといった観点を含めて実施しています。

脳卒中

フレイル

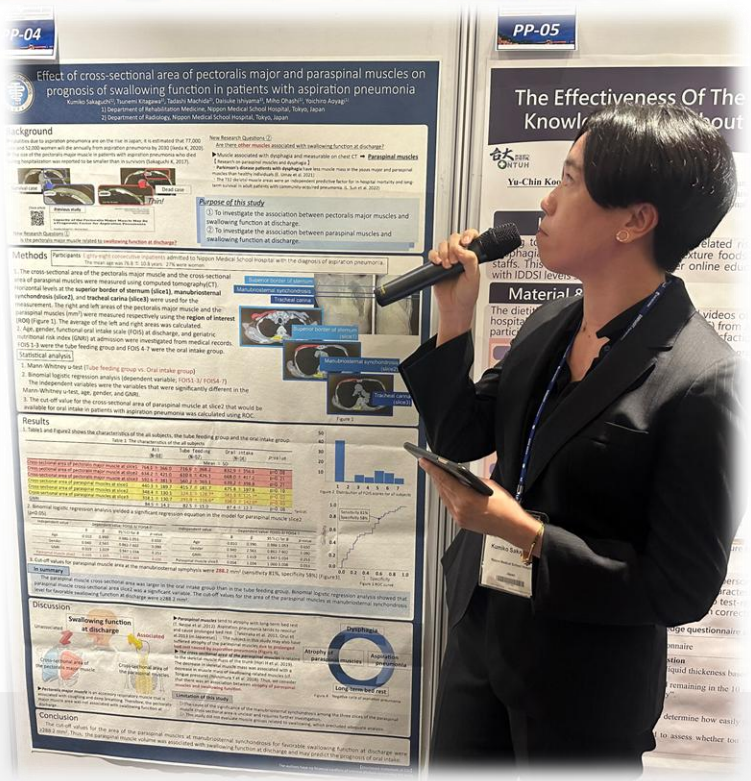
サルコペニア

予後調査

退院後の摂食状況や日常生活活動など

心臓血管外科術後患者における心臓リハビリテーション効果の検討

心臓の手術前および退院時に、運動機能、認知機能、嚥下機能などを詳細に評価し、
周術期の心臓リハビリテーションをより効果的に実施するための検討をしています。



部門目標

- 臨床以外にも、勉強会や研究・学会発表を積極的に行い、

Activeかつ、常に向上心を持って学び続ける！

永続的に成長し続ける組織

を目標としています。

ご清聴ありがとうございました。